

人とのつながりを大切に

NPPO法人ガバナンス舞鶴理事長

石橋裕志さん

「より良いものをより安くー」商売人の感覚を公共施設の経営に、そしてこれまでのまちづくりで培ってきた経験をもとに、新しい公共サービスの形を目指し、青葉山ろく公園や五老ヶ岳公園の指定管理者として活動しているNPPO法人ガバナンス舞鶴。その理事長の石橋裕志さんにお話を伺いました。

自分たち自身で面白いことをやろうと活動を開始

若いころ、気付けば「何か面白いことはないかなあ」と愚痴っていました。そんなあるとき、仲間が「待っていて何も始まらない。それなら

自分たちで何かやろう」と言い出し「そうだ、みんなで遊ぼうー市民も巻き込んでみんなで楽しいイベントをやろうぜ」と盛り上がったのがきっかけでした。

資金もなく、協賛金を募るため毎日お願いに回りました。そのうちに、だんだんと自己暗示にかかったかのように、「俺たちがやろう」としていいことは、ただ遊ぶだけじゃないんだ。世のため人のため、みんなの役に立っているんだ」と思うようになり、やる気が出て毎日がとても楽しくなりました。そして、平成7年の夏、多くの仲間とともに「第1回まち遊びフェスティバル」を開催。大成功でしたが、そのときの苦労は今でも忘れられませんが。

「舞鶴災害ボランティア支援センター」を発足

平成16年10月の台風23号の豪雨被害が起こったときに「舞鶴災害ボランティアセンター」を立ち上げ、全国から集まるボランティアの受け入れ窓口として活動しました。平成23年3月の東日本大震災の際に、その経験や教訓を生かして「何か力になりたい」との思いから、市、社会福祉協議会、舞鶴青年会議所とともに「舞鶴災害ボランティア支援センター」を発足させました。草の根レベルで必要物資の情報を集め、福島県いわき市から要望のあった仮設風呂を現地に届けました。

これが縁となつて、両市で少年野球チームの交流が始まったり、無償で震災についての防災講演に出向いてくれたりと交流の輪が広がっていききました。

今まで出会った多くの人に感謝

舞鶴災害ボランティア支援センターや公共施設の指定管理をする中で感じるのは、自分ひとりではできなかったことが、いろいろな人たちと出会い、多くの人たちに助けられ達成できたことです。これからも「人」と「人」とのつながりを大切にしていききたいと思っています。



編集後記

あけましておめでとうございます。昨年の大雪から早1年がたちました。道路が大渋滞。家から市役所まで約10^分の道のりを2時間半かけて歩きましたが、上には上がっているもので、15^分歩いた女性がいることを聞いてびっくり。早寝早起き、雪かきの毎日が続くのかなあ…。今年はず70周年。皆さんにとって明るい話題が盛りだくさんの1年なることを祈っています(山崎)。

冬真ただ中で、ノロウイルスやインフルエンザの流行する時期になりました。今年も、体力づくりや病気予防に努めて、元気に1年を過ごしたいと思っています。先日、家で採れたユズをお風呂に入れたら身体がぽっかぽかに！お金をかけず簡単にできる健康法を実践中です(木下)。

今年30歳を迎える節目の年。ただがむしゃらに突っ走った20代も終わり、これからは焦点を絞ってしっかりとした目標を持ち、強い意志でまい進していきたいです。新たな旅の第1歩を踏み出します(坪内)。

